

中野・新宿文化回廊散策ルートマップ



《開館・開園時間》

中野区立歴史民俗資料館 (中野区江古田 4-3-4)
 ☎ 03-3319-9221
 開館時間 9:00 ~ 17:00
 入館料 無料
 休館日 月曜日・第3日曜日、年末年始

中野区立哲学堂公園 (文化財庭園区域) (中野区松が丘 1-34-28)
 ☎ 03-3951-2515
 開園時間 3 ~ 9 月 8:00 ~ 18:00
 10 ~ 11 月 8:00 ~ 17:00
 12 ~ 2 月 9:00 ~ 17:00
 入園料 無料 (ガイドマップ 210 円)
 休園日 12/29 ~ 31

新宿区立林芙美子記念館 (新宿区中井 2-20-1)
 ☎ 03-5996-9207
 開館時間 10:00 ~ 16:30
 入館料 一般 150 円、小中学生 50 円
 団体料金など詳細は問合せください
 休館日 月曜日 (祝日の場合翌平日) 12/29 ~ 1/3

《ルート始発点》

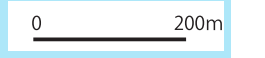
鉄道
 西武新宿線 中井駅、沼袋駅
 都営大江戸線 中井駅

車
 3施設ともに十分な駐車場がないため、公共交通機関のご利用をお願いします。

《行程の目安》

全ルート：約 3 km
 散策時間：各施設を 1 時間程度観覧すると、4 時間程度で利用できます。
 *印の付された施設は、通常は一般非公開の場合がありますので、詳細は施設に確認ください。

- 凡例
- 周遊施設
 - 主な周辺施設
 - 散策ルート



～ 文化回廊散策ルートから観覧できる施設 ～

A. 中野区立歴史民俗資料館

中野区の歴史に関わる多くの資料と所蔵品があり、年間を通して常設展と企画展により、地域を知り、楽しめる施設となっています。

常設展では、中野の原始から現代までの歴史を各時代の人々の暮らしの様子や中野にゆかりのある文化人等を通して紹介しています。

企画展示では、哲学堂公園に井上円了が所蔵していた書籍や世界から持ち帰った貴重品などを観覧することができます。春のおひなさま展が人気です。



中野区立歴史民俗資料館 正面

B. 国指定名勝 哲学堂公園

明治 37 年より建てられた哲学をテーマとする哲学堂公園があり、哲学の言葉を冠した七十七の建築物や石造物が配置されています。

ゴールデンウィークの連休や 10 月の週末、他の月の第一日曜日には、古建築物の内部を観覧でき、ガイドツアーも実施されています。古建築物の一つで講堂として建てられた宇宙館では、公園の歴史や創設者井上円了の生涯を辿る 20 分ほどのビデオを視聴できます。



中野区立哲学堂公園 六賢台

C. 新宿区立林芙美子記念館

(東京都選定歴史的建造物)

林芙美子記念館は、「放浪記」や「浮雲」などの代表作で知られる作家・林芙美子が昭和 16 年から生涯を閉じるまでの 10 年間過ごした住居で、当時を忍ばせる静かな佇まいを残しています。

庭は、武蔵野の雑木林を思わせる落ち着いた雰囲気があり、四季折々の野草が花を咲かせます。

また、アトリエでは、生涯を辿る 15 分ほどの紹介ビデオを視聴できます。



新宿区立林芙美子記念館 前庭

1 江古田原沼袋合戦古戦場 石碑

江古田公園には、室町末期に江戸城を拠点としていた太田道灌が、豊島氏と戦った「江古田原沼袋合戦古戦場」を記した石碑があります。当時の関東は二つの勢力に分かれ対立していましたが、中立を保っていた豊島泰経が古河公方についたことにより事態は緊張し、文明 9 年 (1477) 4 月 14 日に豊島氏と太田道灌が衝突をしたのが「江古田原沼袋合戦」です。



2 蓮華寺 (日蓮宗) (井上円了の墓所があります)

蓮華寺は、日蓮宗の寺院で山号を星光山とし、室町前期に横浜で開山し、江戸中期にこの地に移されました。

境内には、井上円了のユニークなデザインの墓があります。生前に円了自身がデザインしたもので、「井」(いげた)の字の上に「〇」(えん)が置かれ、井の上に円と読める形になっており、円了らしい遊び心が見られます。哲学者・教育者だけでなく妖怪博士としての顔も持つ、奇才・井上円了らしい墓石といえます。



3 旧野方配水塔 (みずの塔)

哲学堂公園の北、新青梅街道を越えた住宅街の中の公園に堂々と立っている「旧野方配水塔」です。

名前の通り、東京 23 区への配水を目的として昭和 4 年 (1929 年) に完成しました。平成 17 年 (2005 年) に配水塔の役割を終了し、現在は静かに野方の街を見下ろしています。ドーム付円筒形水道塔として最初期の事例であるとされ、「造形の規範となっているもの」として国の登録有形文化財に指定されています。



4 中井御霊神社

中井御霊神社は、古くから落合村中井の鎮守でした。この神社には、「備射祭」(新宿区指定文化財)に使われる的を描く際にコンパスとして用いる「分木」(新宿区指定文化財)や、「雨乞のむしろ旗」(新宿区指定文化財)も保存されています。

これは、江戸時代に農民が雨乞いの行事で用いたものです。竜王神と墨書され、干害に備えて竜神に降雨を願いました。現在のむしろ旗は、幕末頃のものだと推定されます。素朴な農民の信仰がうかがえる貴重な民俗資料です。このほか、社殿や狛犬も新宿区の文化財に指定されています。



5 新宿ミニ博物館 二葉苑 (染の里おちあい)

新宿区の地場産業である染色業は、大正から昭和初期にかけて、もともと神田・浅草などに多かった染色業が、水洗いに使用する清流を求めて神田川をさかのぼり、落合・西早稲田あたりに定住したのをはじめとしています。現在も「東京染小紋」「江戸更紗」などの作品を染める染色業や、湯のし・洗い張りなどの関連業種、手描友禅や刺繍の職人などが、多数操業しています。

「二葉苑」は、大正 9 年に落合で開業した区内でも古い歴史をもつ染色工房です。現在は着物のみならず装身具やインテリアなどに伝統の作品を提案しています。新宿ミニ博物館では、作品のほかに実際の染めの工程も窓越しに見学することができ、予約すれば染色体験もできます。

